

茂木敏充衆議院議員との対談 第1回

全3回

衆議院議員 茂木敏充先生

開倫塾塾長 林明夫

林明夫：おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。

今朝も「開倫塾の時間」をお聞きいただきまして有難うございます。

毎年1～2回、スペシャルゲストをお呼びしてこの番組を進めさせていただいております。今回のゲストは、衆議院議員の茂木敏充先生です。先生よろしくお願ひ致します。

茂木敏充先生：おはようございます。よろしくお願ひ致します。

林：今回は、茂木先生から、これからの日本の景気、経済情勢がどうなるかというお話を3回シリーズでお聞きしたいと思います。よろしくお願ひ致します。

最初に、金融危機の中で世界はどのようになっていくのか、特にアメリカのオバマ政権についてお話を伺いたと思います。よろしくお願ひ致します。

茂木敏充先生は、オバマ大統領と同じハーバード大学のご出身ということですが、それでよろしいでしょうか。

茂木：ハーバード大学の同窓ということで、私も誇りに思っているのですが、在籍時期は重なってはいません。私は、ハーバード大学のケネディスクールという公共政策の大学院で、在籍していたのは80年代の前半です。オバマ新大統領はロースクール・法科大学院で法律の勉強をしまして、91年の卒業です。ですから、8年くらいの差があります。ただ、オバマ大統領には、数年前に上院議員に当選した直後あたりから何しろ演説に迫力があり、注目していました。こういう人間が将来のアメリカを支えるのではないかとひそかに期待もしていて、以前にもワシントンの記者仲間に「バラク・オバマという人は注目だよ」という話をしていました。そして、オバマ氏は、予想以上に早く大統領選に出馬、予備選でヒラリーさんを破り、そして本選では共和党のマケインさんも破りました。40代の若さで44代大統領に就任というのは、本当に素晴らしいと思っています。

林：茂木先生はケネディスクールという公共政策の大学院で、オバマ大統領はロースクール、つまり法科大学院で勉強しておられました。お互いにハーバード大学のご出身ということですからいいことだと思います。

1月20日の大統領就任式には250万人もの観衆が全米から集まったと聞いていますが、オバマ大統領の就任演説をお聞きになって、茂木先生はどのようにお感じになりましたか。

茂木：歴史的にすごい就任式だったと思いました。非常に華やかでしたよね。今、林さんがおっしゃ

ったように、全米から 200 万人以上の人が集まったということで、アメリカ国民の 150 人に 1 人がワシントンに結集しました。1960 年代にマーティン・ルーサー・キング牧師がワシントンに向けて行進をした、当時の公民権運動を彷彿(ほうふつ)とさせるような本当に素晴らしい就任式だったと思います。

ただ、演説そのものは、オバマ候補が大統領になる前と比べると相当モードチェンジがあったと思っています。それは、二つあります。一つは、非常に落ち着いた、ある意味地味な演説だったことです。大統領になるまでの選挙キャンペーンの期間は「Change」とか、「Yes, we can.」という言葉を使って非常に派手な演説でしたが、就任式は落ち着きがあって、その分大統領としての重い責任感が感じられた演説だったと思います。

もう一つは、国民一人ひとりに呼びかける演説だったということです。この就任演説のキーワードは「新しい責任の時代」、英語で言いますと「A new era of responsibility」になってくると思います。非常にアメリカの歴史や、原点を意識し、国民の皆さんにも責任を持ってもらうのだという演説でした。これは、ケネディ大統領の演説を彷彿とさせます。また、対立を乗り越えていくという点では、オバマ大統領が非常に意識していたリンカーン、さらには建国の父ジョージ・ワシントンのへの原点回帰です。経済の状態が相当厳しい時代だからこそ、対立を乗り越えてアメリカ国民が一体となって難局を乗り切っていく必要があるのだ、という演説になったのではないかと思います。

林：オバマ政権では、大統領の指名選挙を争ったヒラリーさんを国務長官、日本で言うと外務大臣に指名しました。オバマ政権の特徴をどのようにお考えですか？

茂木：対立を乗り越えて一体になるということがシンボリックに表れていると思います。「チーム・オブ・ライバル」と言われているのですね。指名選挙を争ったヒラリーさんを国務長官に指名する。更には、政党の違う共和党のゲイツ国防長官(日本で言うと防衛大臣)を留任させる。こういったところにも、以前のライバルと対立を乗り越えて一体感を醸し出したい、というオバマ大統領の意気込みというか、気持ちが表れていると思います。

もう一つの特徴は、今回のオバマ政権が“Clinton Administration Without Bill”と言われていることです。つまり、クリントン政権の中で、ビル、つまりクリントン元大統領だけがいない政権ということです。人事では選挙で頑張ってくれた人を重用する、ということがアメリカの大統領には多いのですが、今回はむしろ実務家や経験のある人を起用した。これが特徴だと思います。

さらに多様性ですね。ご本人もアフリカ系黒人ということもありますが、20 くらいある閣僚級ポストの中で女性を 5 名、黒人を 4 名、アジア系を 2 名、アラブ系を 1 名、ヒスパニックも登用するというので、非常に多様性あふれる人選になったのではないかと思います。

林：最後にお聞きしたいのですが、オバマ大統領の支持率は非常に高いと聞いていますが、オバマ政権の今後の見通しについて茂木先生はどのようにお考えでしょうか。

茂木：発足直後の支持率が 68 %ということで、これはケネディ大統領の 72 %に次ぐ史上 2 番目の高さになります。その一方で、アメリカは経済的に相当厳しい状況にありますから、これを乗り

越えられるかどうか。これが、今後オバマ政権の基盤が固まっていくかどうかの試金石になっていくと思います。

林：有難うございました、今日は茂木敏充衆議院議員をお招きし、茂木先生から金融危機の中で日本とアメリカがどうなっていくのか、その第1回目のお話をお聞きしました。茂木先生、来週もまたよろしくお願い致します。

茂木：こちらこそよろしくお願い致します。